

防災士の資格をお持ちの方限定

防災に関する自らの知識を磨き実践力の向上を目指す



防災士専門講座

更なる防災力を身につける



Bousaishi Training Center

防災士研修センター

日本防災士機構認証研修機関

「防災士専門講座」とは

防災士研修センターで、防災士研修講座を受講した防災士の方限定で提供するオンライン研修です。

2003年に防災士研修講座が開講して以来、約27万人の防災士の方が全国で活躍なさっています。その皆さんから、「防災士の資格にふさわしい知識習得の場が欲しい」、「防災士として学び続ける場が欲しい」、との多くの声を受け、この度「防災士専門講座」を開設することとなりました。年々自然災害はその形を変え、今までの防災の常識が非常識となりかねない状態です。そんな中、防災に関する知識は命に係わるものとして、その重要度は増すばかりです。ぜひ「年1回は防災の学び」を習慣にしてください。

■ 豊富なテーマラインナップ

現代における防災を語る上で、欠かすことのできない多岐にわたるテーマを集めています。あなたの学びたい「防災」がここにあります。

■ プロフェッショナルな講師陣

全国各地の防災士研修講座でご登壇いただいている講師をはじめ、専門分野の第一人者にご登壇いただきます。

■ 講座は選択式

〔必修講座〕(30分)に加え、〔災害発生のメカニズムとその影響〕の5講座(各60分)から1つ、〔様々な災害リスクとその対策〕の15講座(各60分)から3つをお選びいただけます。計5講座4.5時間を、ご自身の「防災士」としての活動にお役立てください。

- ※講座のラインナップは予告なく変更となる場合があります。
- ※各時間は、概ねの時間となります。

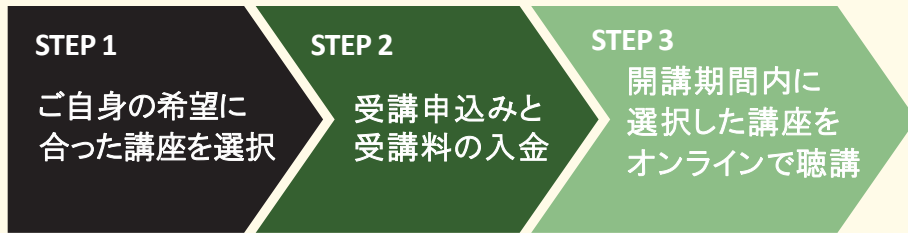
■ 繰り返しの聴講で「深い学び」を実現

e-ラーニングで、あなたのライフスタイルに合わせて受講できます。PCで、スマホで、タブレットで、好きな時間に聴講して下さい。途中で聴講を中断しても中断した箇所から再開できます。また100%受講完了した講座も、期間中は繰り返し聴講でき、復習にも役立ちます。



受講画面イメージ（本番のご提供画面とは異なります）

■ 修了までの3ステップ

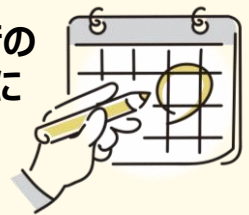


全ての講座が
100%となれば
修了です。



■ 毎年1回の「防災の学び」を習慣に

防災における情報は毎年めまぐるしく変わります。法令の改正や技術の進歩に伴い、案内方法や対処法も頻繁に変更されます。時間とともに変わる情報の中には、命の危険を伴うものもあります。



私たちは、安全を守るために、常に最新の知識を身につけておくことが重要です。受講生の皆様が安心して日常生活を送るために、毎年1回の継続的な「防災の学び」を習慣にしてください。

下記日程で申込みを受け付けます。開講期間（2週間）内に、オンラインにてご受講下さい。

【1期】	<u>2024年 1月10日(水) ~ 1月23日(火)【2週間】</u>
	<申込期間>12月 1日(金) ~ 12月25日(月)
【2期】	<u>2024年 2月 7日(水) ~ 2月20日(火)【2週間】</u>
	<申込期間>12月 1日(金) ~ 1月22日(月)

■ 受講料金 25,000 円 (税込)

選択した講座4講座（4時間）+ 必修講座（30分）を2週間で受講していただきます。

※開講期間（2週間/期）あたりの料金となります。

複数の日程の受講も可能です。その場合は、開講期間ごとに申込みのお手続きが必要となり、つど上記の金額を申し受けます（但し必修講座は年度内共通です）。

※払込手数料はお客様のご負担となります。

※開講期間（2週間）内での受講完了が難しい場合、事前にお申し出いただいた場合に限り、7日間の延長（オプション・無料）も可能です。

■ 受講対象者

防災士研修センターで、防災士の資格を取得された方のみとなります。
防災士研修講座の受講時期（防災士資格取得時期）は不問です。

※防災士専門講座は、防災士資格の更新研修ではありません。

災害発生メカニズムと
その影響

1講座を選択します。防災士教本で学んだ内容を
全ての防災士に深掘して頂きたい題材を厳選。

気象災害・風水害

激甚化する気象災害・風水害全般について、災害への対応力を高めるため「予報・警報」などの命を守るために欠かせない最新の防災気象情報（気象庁ナウキャストなど）について学ぶ。

講師 伊藤 みゆき (いとう みゆき)

NHKラジオ気象キャスター、日本気象学会天気予報研究連絡会委員。1997年気象予報士資格取得後、民放のテレビやラジオで気象解説を担当。2006年よりNHKラジオの早朝番組で気象キャスターを務める。現在は朝の気象情報を担当、「いざという時に頼りになる」とされるラジオでの気象解説・防災意識向上に日々取り組んでいる。

土砂災害

過去に発生した土砂災害での、避難における成功事例、失敗事例を参考に、ハード（砂防施設）の機能と限界、それを補うソフト（警戒情報など）のあり方を学ぶ。

講師 大野 宏之 (おおの ひろゆき)

一般社団法人全国治水砂防協会理事。大学卒業後、旧建設省に入省し、主に砂防事業を担当。地方自治体、海外での勤務も経験。国土交通省砂防部砂防部長等を歴任し、現職。豪雨・火山・地震による土砂災害対策・危機管理対応の経験を多く持ち、現在も土砂災害防止に取り組む。富山県立大学客員教授、東京大学非常勤講師、静岡大学非常勤講師、砂防学会会長。

地震・津波災害

2023年5月、日本では震度5弱以上の地震が6回発生した。首都直下地震や南海トラフ地震のほか、内陸直下の活断層、長周期地震動の危険性など、研究が進むにつれて明らかになる地震・津波災害のリスクについて学ぶ。

講師 平田 直 (ひらた なおし)

東京大学名誉教授。東京大学大学院にて理学博士の学位を取得。同大学地震研究所所長・教授、防災科学技術研究所参与を務めた。専門は観測地震学。首都直下地震・南海トラフ地震等巨大地震の解明や被災した都市機能の回復の研究の傍ら、(一社)防災教育普及協会会長を務める等、防災教育に取り組む。2017年防災功労者内閣総理大臣表彰受賞。

火災

火災は出火防止対策や、初期消火対策によって被害を最小限に防ぐことができる。市街地火災からの復興に取り組む糸魚川市などの事例の紹介や建物火災、住宅火災の対策とその課題について学ぶ。

講師 廣井 悠 (ひろい ゆう)

東京大学教授。東京大学大学院にて工学博士の学位を取得。名古屋大学准教授等を経て2023年4月より現職。専門は都市防災・都市計画。行政や研究機関の枠に留まらない企業や住民を含めた減災社会構築に取組む。文部科学大臣表彰 科学技術賞、同・若手科学者賞、防災功労者・内閣総理大臣表彰を受賞。令和防災研究所理事・主席研究員。

火山災害

過去の火山災害、とくに雲仙普賢岳・有珠山・三宅島の事例を紹介しながら、これからの火山噴火に対する備えや、国の新たな観測体制、情報発信の方法について学ぶ。

講師 藤井 敏嗣 (ふじい としつぐ)

NPO法人環境防災総合政策研究機構副理事長、環境・防災研究所長。東京大学大学院理学系研究科博士課程修了。専門はマグマ学、火山学。東京大学地震研究所所長、東京大学副学長などを歴任。現在はCeMI環境・防災研究所所長、山梨県富士山科学研究所所長。2003年から2017年まで火山噴火予知連絡会会長を務める。2010年防災功労者内閣総理大臣表彰受賞。2020年NHK放送文化賞受賞。

様々な災害リスクとその対策 ～災害列島日本を知る～

3講座を選択。ピンポイントで掘り下げたい講座をその分野の第一人者に語って頂きます。

日本海溝・千島海溝 周辺海溝型地震

日本海溝・千島海溝を震源とする地震は、いずれもM9級で、死者は10万人以上と想定されている。冬は積雪や路面凍結、「低体温症」対策が必要として政府は応急対策活動計画を発表している。自助・共助での対策を学ぶ。

講師 今村 文彦 (いまむら ふみひこ)

東北大学災害科学国際研究所教授。東北大学工学部土木工学科卒。博士（工学）。同大学助教授、京都大学防災研究所客員助教授などを経て2012年より現職。東日本大震災の教訓を生かすために設立された東北大学災害科学国際研究所の開設、運営に尽力し2014年4月から2代目所長に就任。2023年3月末で同研究所所長退任。著書多数。

南海トラフ地震

南海トラフ地震は、被災地域が広範囲にわたることや、「半割れ」による被害の長期化など前例のない被害が想定される。災害心理学を専門とする講師の独自の視点で、個々人のとるべき対策・行動について解説する。

講師 木村 玲欧 (きむら れお)

兵庫県立大学 環境人間学部・大学院環境人間学研究所 教授。
京都大学大学院にて博士号取得。名古屋大学大学院環境学研究所助手・助教等を経て現職。専門は防災心理学、防災教育学、社会調査法。専門分野は、災害時の人間心理・行動、復旧・復興過程、歴史災害教訓、効果的な被災者支援、防災教育・地域防災力向上手法など。

阪神大震災 100年の学び

関東大震災後、「帝都復興事業」として都心の基盤設計を進めたが、第二次大戦や64年東京オリンピック等を経て、いまだ防災に課題を抱えている。全国共通の課題といえる、「まちづくり」について関東大震災研究の第一人者が提案する。

講師 武村 雅之 (たけむら まさゆき)

名古屋大学減災連携研究センター 特任教授。東北大学大学院理学研究科博士課程修了（理学博士）。専門分野は、地震学および地震工学。鹿島建設を経て現職。日本地震学会、日本建築学会、土木学会、日本活断層学会の理事、監事、委員、歴史地震研究会会長、日本地震工学会副会長、中央防災会議専門委員などを務める。『関東大震災を歩く』など著書多数。

首都直下地震

被害想定の見直しを重ねている首都直下地震。発生するタイミングや気象条件によって、被害の影響も細かに想定されている。首都機能の被災による社会的影響を含め、速やかな復旧のために求められる対策について考える。

講師 平田 直 (ひらた なおし)

東京大学名誉教授。東京大学大学院にて理学博士の学位を取得。同大学地震研究所所長・教授、防災科学技術研究所参与を務めた。専門は観測地震学。首都直下地震・南海トラフ地震等巨大地震の解明や被災した都市機能の回復の研究の傍ら、(一社)防災教育普及協会会長を務める等、防災教育に取り組む。2017年防災功労者内閣総理大臣表彰受賞。

富士山噴火

富士山噴火の歴史と解き明かされたメカニズム、最新の避難計画と想定される被害内容、大地震との連動の可能性、事前対策と、発災時の対応方法について学ぶ。

講師 藤井 敏嗣 (ふじい としつぐ)

NPO法人環境防災総合政策研究機構副理事長、環境・防災研究所長。東京大学大学院理学系研究科博士課程修了。専門はマグマ学、火山学。東京大学地震研究所所長、東京大学副学長などを歴任。現在はCeMI環境・防災研究所所長、山梨県富士山科学研究所所長。2003年から2017年まで火山噴火予知連絡会会長を務める。2010年防災功労者内閣総理大臣表彰受賞。2020年NHK放送文化賞受賞。

様々な災害リスクとその対策

～命を守る～

災害と健康

発災時に命を落とさないための対策が最優先であるが、応急処置だけでなくその後の復旧・復興と続く生活の中で健康を害する要因を詳しく学び、健康維持のために個人で行う対策、地域で取り組む対策について学ぶ。

講師 穴倉 朋胤 (ししくら ともたね)

NPO法人首都圏防災士連絡会理事長・社会医療法人社団正朋会穴倉病院理事長。
1992年旭川医科大学医学部卒業。千葉大学附属病院第一外科に入局後、都立府中病院等で、幅広く外科診療に従事。医師会の救急災害担当理事長として、地域の防災計画策定や防災教育に取り組む。全日本病院協会理事、千葉県CL-DMAT隊員。

災害と暮らし

防災の取組みは、後回しにしたり、長続きしないといった問題に直面する。あらゆる面で在宅避難が推奨されている昨今、各家庭で簡単に取り組める在宅避難を想定した訓練の方法とそこから導かれる課題、解決策について学ぶ。

講師 玉田 太郎 (たまだ たろう)

防災士研修センター代表取締役、令和防災研究所エグゼクティブフェロ-IPU卒業。大手人材・IT系企業での勤務を経て防災情報新聞業務部長等を歴任。様々な災害現場での視察を基に全国で開催される防災士研修講座の企画・運営指導等に当たる。企業向け災害対策や危機管理防災セミナーを実施。小中学生向け学校防災等の講師を全国各地で数多く務め、より実践的な防災の普及・啓発に努めている。

子どもと防災

妊産婦や乳幼児は、災害時に健康面や食事面、心理面で特別なケアが必要となる。講師が携った「妊産婦・乳児救護所」の例を参考に、当事者を含めた災害時の取り組むべき対策・注意点について学ぶ。

講師 春名 めぐみ (はるな めぐみ)

東京大学大学院医学系研究科母性看護学・助産学教授（助産師）。東京大学大学院にて博士号（保健学）取得。名古屋市立大学病院助産師、東京大学大学院地域看護学分野助手、同母性看護学・助産学分野講師、准教授を経て、2020年より現職。日本助産学会理事、日本周産期メンタルヘルズ学会理事、日本母性衛生学会幹事、日本助産評価機構理事等を歴任。

災害と避難

さまざまな事象に応じた避難行動を迅速に判断・実行することができることが重要だ。災害時の心理を理解した上で、速やかに避難するための事前の準備や、避難の妨げとなり得る、想定される災害時の課題を整理し、解決策を考える。

講師 廣井 悠 (ひろい ゆう)

東京大学教授。東京大学大学院にて工学博士の学位を取得。名古屋大学准教授等を経て2023年4月より現職。専門は都市防災・都市計画。行政や研究機関の枠に留まらない企業や住民を含めた減災社会構築に取組む。文部科学大臣表彰 科学技術賞、同・若手科学者賞、防災功労者・内閣総理大臣表彰を受賞。令和防災研究所理事・主席研究員。

災害情報を正しく
扱い活かす

多くの災害情報がマスメディア、ソーシャルメディアを通じて国、気象台、自治体などから発信されている。しかしそれらが迅速な避難や被害軽減に有効活用されているとはいい難い。避難に役立つ災害情報の取り扱い方を学ぶ。

講師 矢守 克也 (やもり かつや)

京都大学防災研究所巨大災害防災研究センター教授。大阪大学大学院人間科学研究科卒業。博士（人間科学）を取得。集団力学研究所、関西女子短期大学、奈良大学社会学部、ヨハネス・ケプラー大学を経て、2009年より現職。2021年防災功労者防災担当大臣表彰を受賞。カード形式の防災教育教材「クロスロード」、津波避難訓練アプリ「逃げトレ」などの開発者の一人として有名。

様々な災害リスクとその対策

～地域で暮らす～

災害ボランティア

被災地を支援する側から、いつ支援を受ける立場になるかわからない状態にある。ボランティア活動の心得と同時に、受援側として気を付けるべきことや、復旧・復興の好事例から、災害ボランティアのあるべき姿について学ぶ。

講師 **安部 美和** (あべ みわ)

東海大学文理融合学部地域社会学科准教授。京都大学大学院地球環境学舎博士課程修了。熊本大学在職中に平成28年の熊本地震が発生し、学生と一緒に熊本大学黒髪体育館の避難所運営にあたる。熊本大学復興プロジェクトの復興ボランティア活動支援プロジェクトリーダーとして復興支援に従事後、令和4年4月より現職。

BCP業界別 実践講座

対象の業界は福祉施設。社会の脆弱化により防災において福祉施設に求められることは多様かつ重要である。BCP策定手順の紹介を通じて、地域住民、利用者やその関係者も含めた「誰も取り残さない防災」を学ぶ。

講師 **鍵屋 一** (かぎや はじめ)

跡見学園女子大学観光コミュニティ学部コミュニティデザイン学科教授。早稲田大学法学部を卒業後、板橋区役所に入所。福祉部長、危機管理担当部長（兼務）、議会議務局長などを歴任する傍ら、2000年に法政大学大学院政治学専攻修士課程を修了。2015年3月に京都大学博士、4月より現職。内閣府「被災者支援のあり方検討会」座長、一般社団法人福祉防災コミュニティ協会代表理事等。

マンション防災

首都直下地震を災害として想定し、マンションに居住するもしくはその周辺住民である防災士が、マンション住民に対し普段（事前）の準備から発災時、その後の在宅避難期間にどう対応すべきかを学ぶ。

講師 **釜石 徹** (かまいし とおる)

災害対策研究会主任研究員・マンション防災士。長年防災対策の研究に取り組み、マンションや自治体の防災講演にて実践的なマンション防災対策と長期在宅避難の方法を伝えている。令和5年度東京防災ホリデーセミナーの講師。自らの体験から防災対策の課題と対応策をまとめ「マンション防災の新常識」を出版。新聞各紙、雑誌等の取材やラジオ出演なども多い。

避難所運営と 設置協力

収容人数を削減し、特殊な事情に幅広く対応することも求められる避難所を自治体と住民が一体となって速やかに開設し、運営するために必要な準備について学ぶ。

講師 **田中 純一** (たなか じゅんいち)

北陸学院大学社会学部社会学科教授。金沢大学大学院にて社会環境科学博士の学位を取得。2008年に金沢大学人間社会研究域法学系特任助教着任。能登半島地震学術調査部会スタッフとして、能登地域の復興・再生に向けた調査研究に取組む。2012年4月北陸学院大学に着任。東日本大震災被災地支援「よりそいの花プロジェクト」担当。

企業と地域防災

BCP策定とは別に、地域の一員としての企業の防災活動とその好事例を紹介する。また、自治体との災害協定締結における課題と企業が果たすべき役割について学ぶ。

講師 **松井 一洋** (まつい かずひろ)

広島経済大学名誉教授。大阪府堺市出身。早稲田大学卒業。阪神淡路大震災（1995）に被災後、NHK放送文化基金「災害放送プロジェクト」専門委員や日本災害情報学会の設立に参画。現在は、大学の非常勤講師のほか、消防庁「市町村長の災害対応力強化のための研修」指導員や消防学校、市民防災公開講座の講師など活動は多岐にわたる。

必修講座

防災士専門講座 ガイダンス

防災士研修センター代表取締役
令和防災研究所エグゼクティブフェロー

玉田 太郎

日本だけでなく、世界各地で気候変動の影響と思われる自然災害が多発している。当講座では、世界で発生している自然災害の代表的な事例と、それを機に日本の防災対策を振り返る内容、ならびに防災に関する法律の最新の改正状況について解説する。

<参考> 講座組み合わせ例

家庭の
防災

気象災害・風水害



マンション防災

災害と健康

災害と暮らし

勤務先での
防災

地震・津波



災害情報を正しく扱い活かす

災害と避難

企業と地域防災

地域の
防災

火災



災害と避難

子どもと防災

企業と地域防災

自治体連携

火山災害



災害ボランティア

BCP業界別実践講座

避難所運営と設置協力



必修

=

全5講座

24年度以降リリース予定

次年度以降も年1回の頻度で以下のような講座をご用意する予定です。
是非学びを習慣化して下さい。

マイタイムライン

多様な人々と防災

日本災害史

災害時のトイレ

農林水産業と防災

SDG s と防災

ペトと防災

<シリーズ>BCP業界別実践講座

申込みから修了までの流れ

お申込みはこちら



受講申込み

受講希望の講座を選び、申込みフォームからお申込みください。

- 受講システムの都合上、お1人ずつお申込みいただく必要がございます。複数人分取りまとめてのお申込みは受け付けておりません。ご了承ください。
- 防災士登録No.の入力が必要です。但し、合格しているが、お手元に防災士証が届いていない場合、ご受講のコース名をご記入ください。
- お申込み後のキャンセル、変更はできません。お間違いのないよう、ご注意ください。

ご入金

お申込み後、自動返信メールにて受講料金の入金方法をご案内いたします。お申込み後1週間以内に受講料金をご入金ください。

- 払込手数料はご負担いただきます。
- ご入金を確認ができた方に、開講の約1週間前に受講案内（受講URL ユーザID 初期パスワード）をメールにてお知らせいたします。
※ログインする際にパスワード変更の画面が表示されますので、必ず変更を行ってください。
- 期日までのご入金を確認できない場合、ご受講いただけませんのでご注意ください。
※期日までにご入金間に合わない方は、必ず事務局までご連絡ください。
- 領収書は、ご希望の方にのみ、ご入金確認後1週間を目途にメールに添付して送付いたします（領収書の日付はご入金日となります）。

受講

開講期間中に、講座をオンライン聴講してください。

- あらかじめインターネットに接続したパソコン、スマートフォン、タブレットをご用意ください。
 - Windows
OS： Windows® 8.1、Windows® 10、Windows® 11
ブラウザ： GoogleChrome最新版、Edge最新版、Firefox® 最新版
 - MacOS
OS： Mac OS® X v.10.13以上
ブラウザ： Safari最新版、GoogleChrome最新版、Firefox® 最新版
 - iOS（ブラウザ）
OS： iOS10以上
ブラウザ： Safari最新版
 - Android（ブラウザ）
OS： Android OS 9.0以上
ブラウザ： GoogleChrome標準版・最新版
- 聴講において発生する通信料はご負担ください。
- 講座配布資料は、開講期間中にご自身のパソコンからダウンロードいただけます。
- 開講期間を過ぎると聴講できなくなりますのでご注意ください。
- 動画は最初から最後まできちんと聴講して初めて受講完了になります。
聴講時間は秒単位で把握され、再生バー（シークバー）で飛ばしたところは未聴講扱いになりますのでご注意ください。

修了

修了証を発行します。

- 開講期間内に選択した講座及び必修講座をすべて受講完了した方に「修了証」を郵送いたします。

よくあるご質問

ご受講について

Q 受講の条件はありますか。

年齢や職業等の条件は一切ありません。防災士研修センターで研修受講、資格取得いただいた方であれば、どなたでも受講いただけます。
但し、一度の開講期間は2週間です。2週間で5講座（約4.5時間）の聴講に取り組める日程を選んでお申込みいただくことをお勧めいたします。

Q どのくらいの頻度で受講すると良いのでしょうか。

年々自然災害はその形を変え、今までの防災の常識が非常識となりかねない状態です。そんな中、防災に関する知識は命に係わるものとして、その重要度は増すばかりです。加えてその対策や制度もまた、更新頻度は高まっています。毎年講座の内容を更新いたしますので、自助のためにも年1回は受講されることをお勧めいたします。

Q 防災士資格を取ったのは10年以上前なのですが、受講可能ですか。

はい。防災士研修講座の受講時期、資格取得時期に関わらず、ご受講いただけます。なお、「防災士専門講座」は防災士研修講座で履修した内容について十分に理解した上での受講が望ましいです。防災士教本の内容について改めて学びたいという方は「防災士研修講座学び直し制度」をぜひご活用ください。

* 防災士研修センター「防災士学び直し制度」:

<https://www.bousaishi.net/SpryAssets/manabi.html>

また最新の防災士教本のみをお求めの場合は、日本防災士機構にお問合せください。

* 日本防災士機構「防災士教本の購入について」: <https://bousaisi.jp/purchase/>

Q 同じ年度での開講日程（例：2023年度1期・2期）に複数回申し込みますか？

はい。お申込みいただけます。様々なジャンルの講座をご用意しております。一度に選択できるのは4講座までとなります。その他の講座にも魅力を感じただけの方は、複数の開講日程にぜひお申込みください。その場合はお手数ですが、お申込みのつど、お手続きをお願いいたします。

Q 試験はあるのですか。

ございません。各講座の最後に「学習の要点（ふりかえり）」がございます。そちらを聴講いただくことで、修了とみなします。

Q テキストはあるのですか。

講座ごとに配布資料がございます。開講期間中に、ご自身でダウンロードしてください。なお、無断転載・複写・SNSへのアップロードは固くお断りいたします。

Q 資格は取得できるのですか。
当講座は資格取得のためのものではございません。そのため資格の付与はございません。

Q 修了した場合、証明書は発行してもらえますか。
はい。必修講座と選択なさった4講座を併せた5講座全ての聴講が終了した場合、修了証を郵送いたします。

申込みについて

Q 申込みの方法はどうすればいいのですか。
開講期間ごとにお申込みを受け付けます。下記URL、またはQRコードからお申込みください。

URL: <https://e-ve.event-form.jp/event/66424/xEm3GJ7nzT2u>



Q 申込み内容を間違ってしまったらいいですか。
事務局まで、メール「jukou1@bousaishi.net」にてご連絡ください。

Q 入金の方法を教えてください。
申込み入力・送信を終えられると、入金方法について、自動返信メールにてご連絡いたします。お申込み日より1週間以内にご入金をお願いいたします。
※自動返信メールを受け取るために、事前に「jukou1@bousaishi.net」のメール受信設定をお願いいたします。なお、届かない場合、事務局までご連絡ください。

Q キャンセルをしたいのですが、どうしたらいいですか。
正式申込み後（受講料ご入金後）のキャンセルは原則承っておりません。やむを得ずキャンセルをご希望の方は、事務局までご相談ください。

キャンセルは、お振込みいただいた金額から下記キャンセル料と振込手数料を差し引いて返金いたします。

弊社での入金確認後～弊社から受講URL送信前までにキャンセルのご連絡をいただいた場合	3,300円 (税込)
弊社から受講URL送信後のキャンセルのご連絡をいただいた場合	25,000円 (税込) ※ご返金はございません。

- ・講座の担当講師は予告なく変更となる場合がございます。講師の変更によるキャンセルにつきましては承っておりません。
- ・開講期間中一部に不履行が発生^{※1}した場合は、対象期間分について開講期間の延長を行います。

※1 自然災害や防災士研修センターの配信システムのトラブルによる配信不履行

防災士研修センター「防災士専門講座」事務局

TEL : 03-6261-0003 (9:00~17:30/土日祝除く)

Mail : jukou1@bousaishi.net

